

ふくしま県人会だより

第30号
平成26年11月
福島県人会
北海道連合会

連合会の活動

第42回福島県人会北海道連合会

総会が開催されました

第42回福島県人会北海道連合会総会が、函館市湯の川温泉「湯元啄木亭」で、6月7日（土）に開催されました。

来賓に村田文雄福島県副知事、平出孝朗福島県議会議長御夫妻、古屋義則北海道渡島総合振興局副局長、片岡格函館市副市長、久保俊幸函館商工会議所副会頭をお迎えし、道内県人会から会員の皆様、合計129名が出席しました。

総会では、事業計画、予算が承認され、次回の総会開催を苫小牧福島県人会が担当することが決定されました。

式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島



村田副知事から知事感謝状を受賞する寺脇氏

県人会北海道連合会会長からの感謝状が贈られました。

懇親交流会では、全国新酒鑑評会で金賞を受賞した福島県産日本酒等を飲みながら、母県の思い出話などの交流や、北海道と福島県の民謡・演歌の催しもの、震災復興応援ソング「花は咲く」の全員での合唱などにより大いに盛り上がりました。

【感謝状受賞者】

福島県知事

寺脇 弘晋 様（札幌）

福島県人会北海道連合会長

風間 昶 様（札幌）

坂口 桂子 様（札幌）

菅野 広道 様（函館）

松下彦四郎 様（函館）

島 昌之 様（函館）

山岸 登 様（稚内）

大槻 正吾 様（苫小牧）

石井 芳美 様（別海町）

吉田 孝 様（美幌町）

湯田 直仁 様（浜中町）

佐藤雄平福島県知事と福島県人会北海道連合会との懇談会が開催されました

10月28日、北海道東北地方知事会で来道された佐藤雄平福島県知事と、福島県人会北海道連合会との懇談会が、札幌市「札幌全日空ホテル」で開催されました。

佐藤知事は、平成22年の連合会総会以来、4年ぶりに県人会の皆様との懇談となりました。

金子民男連合会副会長（旭川福島

県人会会長）から、佐藤知事の来道に対する歓迎のあいさつの後、佐藤知事からは、連合会総会に出席した際の思い出や、東日本大震災への対応、福島県の復興に向かう姿勢の御挨拶をいただき、昼食をとりながら、会員の皆様と懇談を行いました。

最後に、田中四郎連合会副会長（札幌福島県人会会長）の音頭により、今期で引退される佐藤知事の御労苦をねぎらい、全員で万歳三唱を行いました。



会員通信

55年前に寄贈したライラックの木

福島県人会北海道連合会副会長

札幌福島県人会会長

田中 四郎

はじめに、函館に於いて開催されました第42回福島県人会北海道連合会総会及び懇親交流会に、各県人会より多数の会員の皆様に御参加を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

併せて、担当の函館福島県人会様の御骨折に厚く御礼を申し上げる次第です。

さて、長い冬を終えてから5月の北海道は、まるで、待ち構えていたように草木が一気に生命の芽を吹き始めて、まさに、春から初夏へのスタートを感じさせてくれます。

私事ではありますが、今年には機会があります。5月13日、石狩市厚田にある戸田記念墓地公園にある、八千本のソメイヨシノの桜の満開を観ることが出来まして感動いたしました。続けざまに、札幌市の大

通公園は、5月19日より、ライラック祭りが開幕されました。そして6月4日からは、「よきこい祭」、14日からは「北海道神宮祭」と大きな行事が次々と続いたのです。

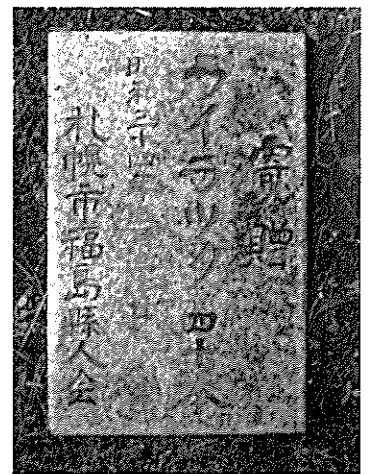
しかしながら、この頃の札幌の気候は、一時期肌寒く感じられる時があります。

この事は、札幌医科大学出身で医師でもある作家、故渡辺淳一先生の小説『リラ冷えの街』で紹介され有名になりました。この本を読んで知っている観光客の中には、それを感じ旅情を味わう人もいるそうです。

昭和55年頃の札幌市の大通公園には280本位のライラックの木があったそうですが、今では400本の木があり、市民の目を楽しませております。

札幌福島県人会は、今から55年前の昭和34年5月30日、40本のライラックの木を札幌市に寄贈し植樹祭を催しました。

写真は、その折りに記念として、縦60cm横40cmの花崗岩に刻んで埋められた碑です。



翌年の昭和35年に、札幌市はライラックの木を「札幌の木」として選定し、今日までライラック祭りが続いております。

ヨーロッパ原産のライラックは、フランス語由来の「リラ」とも呼ばれ、紫色、白色などの花を咲かせ、香りが良く、香水の原料ともされています。

花言葉は、「友情・青春の思い出・純潔・初恋」等です。

植樹祭当日の読売新聞の夕刊には次のような記事が掲載されております。

『友情の花、ライラックの詩の都、札幌のシンボル初夏の町に薄紫の花房がいまを盛りと咲ききそう。フランスはパリのリラ祭になぞらいて二十九日の前夜祭でふたをあげた第一回ライラック祭りを記念し

て三十日午後一時半から札幌市大通六丁目の公園で植樹祭が行われた。この日、原田市長はじめ観光団体、それに植樹を寄贈した札幌福島県人会高田富与会長ら約四十人の関係者が集まり、ライラック寄贈記念碑のそばに甘い香りを放つ若々しいライラックがいつまでも美しい花を咲かせるようにと心を込めて原田市長のクワ入れで植樹した。このあと原田市長は、この花がいつまでも札幌の象徴として詩情をわかせてくれるだろう・・・と札幌福島県人会副会長木村晃三さん（六〇）に感謝状を贈った。』

また、翌日5月31日北海道新聞朝刊にも同じような記事が掲載されました。

ちなみに、この時の札幌福島県人会会長の高田富与氏は、福島県いわき市の出身で札幌市の第五代市長を務められました。さらには、全道の各福島県人会をまとめて福島県人会北海道連合会の発足に努力され、昭和48年5月第一回福島県人会北海道連合会が函館市湯の川で開催され、初代の連合会長を務めたのです。

そして、全道各福島県人会の先輩
会員達の努力と貢献により、今日で
も各地の福島県人会が発展を続け
ていることに敬意と感謝を致す所
であります。

尚、写真撮影は、北海道事務所の
安部主査に協力を戴き、資料調査に
は、札幌福島県人会会員の涌井市議
会議員と札幌市中央図書館の千葉
孝一調査課長に協力を戴きました。
厚く御礼申し上げます。ありがとう
ございました。

県人会の活動紹介

「傷心惨目碑前祭」を開催

函館福島県人会

明治2年の箱館戦争で戦死した
会津藩士を供養する恒例の「傷心惨
目碑前祭」が5月12日(月)、高龍
寺境内に於いて行われました。当日
は快晴に恵まれ20名が参列、札幌
からは県北海道事務所の高壁所長
以下3名が出席されました。

永井住職が読経し、参列者が一人

ずつ焼香しました。その後、永井住
職から「こうして毎年県人会が先祖
の供養を続けていることは誠に感
心なこと、これからも長く続けてほ
しい」との話をいただきました。

その後、魚来亭で昼食会を開催し
歓談しました。



会津若松市長が

「傷心惨目の碑」にお参り

函館福島県人会

6月14日、会津若松市の室井照
平市長が高龍寺を訪問し「傷心惨目

の碑」に祈りをささげました。会津
若松市からの連絡を受け、熊坂会長、
小山・西田両副会長らが同行参列し、
永井住職の読経で亡き藩士の冥福
を祈りました。室井市長は、当県人
会が毎年会津藩士の慰霊祭を行っ
ていることに深く感謝の意を表し
ておられました。



秋の日帰り旅行 く今年もパーク
ゴルフと温泉を楽しむ
函館福島県人会 事務局長
古山利勝

去る9月28日(日)、快晴の下、
秋のレクリエーションとして近郊
でのパークゴルフと温泉を楽しみ
ました。熊坂会長以下14名が参加
しました。

会員の車5台に分乗して9時に
函館を出発、小一時間で恵山シーサ
イドパークゴルフ場に到着。ここは
スタート点からはバックに風力発
電の風車が回る絶好の景観で心和
む思いがします。記念撮影の後4組
に分かれてプレー開始。上手、下手
関係なく思い思いにクラブを振っ
て心地よい汗を流しました。

終わって、小休憩後11時半にゴル
フ場を後にして次の会場の「ホテル
恵風(假法華)」へ向かいました。
正午過ぎに到着し、まずはお腹を満
たすべく昼食会場へ。食事の来るま
での時間を利用してパークゴルフ
の成績発表と高順位者から好みの
品を選ぶ形で商品の贈呈が行われ
ましたが、みんな笑顔で商品を手に

していました。終わったところに注文の食事が運ばれ、いか刺しや海鮮丼に舌鼓を打ちながら完食しました。

急ぎの用を持っていく人もおり、ここでいったん解散しましたが、大方の人はその後ゆっくり温泉に浸かり疲れを癒やしていました。帰りは道の駅・なとわ恵山でショットピングを楽しんだり、遙かに望む下北半島など海岸線のドライブを楽しまました。

秋の一日、おいしい空気を吸いながら心地よい汗を流し、美味しい食事と温泉で互いに交流を深め合うことができました。



道東三地区福島県人会

合同観楓会開催

浜中町福島県人会 菅原秀敏

今年で32回目を迎えた美幌町、別海町、浜中町の道東三地区福島県人会合同観楓会が去る10月10日・11日の2日間、弟子屈町の川湯温泉で開催されました。

この観楓会には三地区県人会から37人の会員が参加しました。

会場の川湯プラザホテルに集結後、この内18名のパークゴルフ交流会参加者が、バスで川湯駅前パークゴルフ場に移動。途中、降りかけた雨も上がり、日頃鍛えた腕前を披露しようと頑張りましたが、樹木に囲まれたパークゴルフ場のため行く手を木に阻まれるなど、悪戦苦闘しながらも和気あいあいにプレーを楽しみながら交流を深めました。プレー終了後は、ホテルに戻り、入浴後、懇談会に先立ち、パークゴルフ交流会の成績発表と表彰を行いました。

引き続き懇親会に入り、担当県人会の天野登恵・浜中町福島県人会長の歓迎のあいさつに続き、来賓とし

て出席した福島県北海道事務所の鈴木幸則次長は、祝辞の中で「9日告示になった福島県知事選に6人の立候補者があつとこと」など福島県の近況を報告しつつ、会員の故郷福島県への協力を訴えました。

担当県人会・一條弘道さんの乾杯の音頭で懇親会に入り、酒を酌み交わし会食しながら各県人会からは、どうぞ自慢の面々が次々とマイクを握り、さながらカラオケ大会の様相を呈しました。中には2曲、3曲と歌う強者もいて大いに盛り上がりました。



カラオケ終了後、次年度担当県人会の近藤康弘・美幌町福島県人会長から「来年また、皆さん元気で美幌町でお会いしましょう。お待ちしております。」と力強いあいさつがありました。

最後に参加者全員が輪になって曲に合わせて「北海盆踊り」を踊ってフィナーレを飾り、親睦と友好を深めた合同観楓会でした。

福島県産農産物等のPR活動

8月～9月を中心に福島県産農産物や観光のPR活動を実施してきました。

8月1・2日には、「ふくしまくだもの消費拡大委員会」が市場をはじめとして、福島県産もののPR活動を実施しました。

8月5日には、札幌市、サッポロファクトリーにおいて「おいしいふくしま、できました」ふくしまのもも と観光フェア」を開催しました。当日は、北星学園大学「スターリース」によるチャダンス、「福が満開ふくしま隊」によるふくしまのPRパフォーマンス、ミスピーチ

キャンペーンクルーによる福島県産もPR、ハーラウ・ラウラーナニのフラダンスショー（一般の方の体験も有り）、「ふくしまハッピー隊」による福島県に関するクイズ大会等でおおいに盛り上がりました。会場では、共催の伊達市がもはやもジュース等を販売し、非常に好評のうちを終了しました。

9月10～12日には、札幌市で、福島県産なし、ぶどうのPR・販売会を開催しました。

いずれのイベントも、多くの皆様においていただき、福島県産の農産物や観光のPRを行うことが出来ました。

今後も、福島県産品や観光のPRを通じて、福島県の復興に寄与できるように活動してまいります。



（写真は、8月5日に開催した、「おいしいふくしま、できました」福島のももと観光フェア」の様子です。）

新会員の紹介

函館県人会

関 尚彦（出身：初山別村）

久保俊幸（出身：函館市）

母県からのお知らせ

鶴ヶ城天守閣再建五十周年

会津若松観光ビューロー

会員、ご家族の皆様こんにちは。
（一財）会津若松観光ビューローの水谷と申します。観光ビューローと聞いてピンとくる方はいらつしやらないとしても「鶴ヶ城」と言えばご存知の方も多いと思います。私どもは鶴ヶ城をはじめとして、会津全体の観光の魅力をお伝えするために日々活動しております。今年で東日本大震災から3年が経ちました。

鶴ヶ城に大きな被害はなく、その後の原発事故による風評被害も大河ドラマ「八重の桜」の放映や、会津の安全性の高さを理解されてきたことにより、少しずつお客様が戻ってきました。10月の中旬には紅葉の見ごろのピークを迎えました。観光に来るお客様や、修学旅行生で公園内にたくさん笑顔や笑い声が溢れ、賑やかな日々を送っています。さて、来年は鶴ヶ城にとって大きな節目となります。平成27年度は天守閣再建五十周年を迎えます。戊辰戦争に耐えた鶴ヶ城ではありませんでしたが、明治7年、国の廃城令により石垣以外のすべての建物が取り壊されました。

その後、「歴史を後世に伝えるべきだ」という声や、「会津のシンボルとして鶴ヶ城を建ててほしい」など、多くの地元の人々の要望により昭和40年9月、郷土博物館として現在の天守閣が完成いたしました。再建当時は黒い瓦で最上層の欄干は赤でしたが、平成22年から1年の瓦葺き替え工事を経て、平成23年春からは赤い瓦に黒い欄干という幕末期の姿に戻りました。今現在、天守に赤瓦を葺いているのは日本

国内では鶴ヶ城のみであります。もちろん、天守閣の再建に反対意見もありました。もし再建がされていなかったら、現在のように歴史を鮮明に伝えられてはいなかったことでしょう。先人たちの活躍があつてこそ現在の現在があるということ深く実感させられます。

そして地元だけでなく、北海道でも会津の先人が健闘されました。明治初期、戊辰戦争に敗戦した旧会津藩士は会津を離れ日本各地に新天地を求め旅立ちました。その中には開拓使として北海道に渡り、骨を埋めた方も多くいらつしやいます。失敗や挫折を乗り越え、北の大地に残した数々の功績は我々会津人の誇りです。どんなに苦しくても将来を見据えて前進する。そんな先人たちの努力の歴史は今も受け継がれています。

再建五十周年に伴い、天守閣内の郷土博物館も大幅にリニューアルをいたします。常設展示室の充実はもちろん、会津若松市が所蔵する歴史的価値の高い資料を、歴代の領主・藩主と共に分かりやすくご紹介させていただきます。年に数回行われる企画展では、各テーマに合わせ

た魅力ある展示をご覧いただけます。平成27年度は城づくり・街づくりの焦点を当てて、春には江戸時代の屏風を、夏には「若松城下絵図」展、秋には鶴ヶ城の築城者である「蒲生氏郷」展を予定しております。

会員の皆様の中にはまだ会津を訪れたことがない方もいらっしゃるでしょう。ご旅行やお里帰りの機会にぜひ、お越し下さいませ。



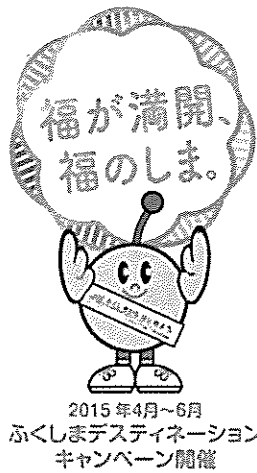
「ふくしまステイネーション
キャンペーン」の開催について

平成27年4～6月に、「ふくしま

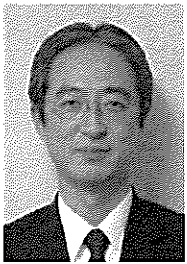
ステイネーションキャンペーン」が開催されます。

ステイネーションキャンペーンとは、JRと観光関係者・自治体が共同、一体となって作り上げる大型観光キャンペーンです。福島県全県での取組は、今回が14年ぶりとなります。

福島県が復興に向かっていく姿や福島県のすばらしさを全国の多くの皆様に知っていただけるよう、県内各地で様々なイベントが開催されますので、是非足をお運びください。



新任職員紹介



次長

鈴木幸則

出身

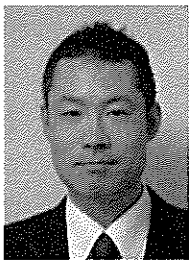
福島市

4月に着任いたしました鈴木と申します。

これまでは、福島県の農業の振興に携わってまいりました。東日本大震災以降、福島県の農業は、着実に復興に向かって、生産者の皆様が頑張っておられますが、風評の影響はまだまだ大きいのが現状です。

北海道にまいりまして、福島県産農産物等のPR活動等を行ってきても、ももを始めとした福島県産農産物を多くの北海道の皆様に食べていただいております、他の地域に比べて、風評が少ないことを実感しております。

今後、多くの方に福島県産のものをお召し上がりいただき、観光等で行っていただけるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。



副主査

岡部安志

出身

いわき市

4月の人事異動で着任いたしました岡部と申します。

北海道事務所では主に、福島県産農産物の流通促進や、観光の宣伝といった業務に携わっております。これまででは土木、生活保護、産業廃棄物といった部署にいたため、不慣れた業務に戸惑いつつも、福島県の復興の一助となるよう業務に取り組んでおります。

北海道は大学生の頃に観光に来て以来でしたが、着任以降、稚内や函館といった道内の都市をいくつか巡りました。北海道の自然はどこまでも雄大ですが、そこに広がる田畑、道路鉄道、町の灯を目の当たりにして、かつて古里から遠く北海道に渡って山野を開墾し、生活の礎を築いた先人たちの努力と苦難に、思いを馳せずにはいられませんでした。

在任中は北海道を巡るとともに、福島県の良さを再認識できればと思います。

県人会の皆様には、どうぞよろしくお願い致します。